

児童ら着衣水泳体験

「ラッコのように」水の事故防げ



ペットボトルを持って水面に浮く練習をする子供ら

本格的な夏を前に水難事故を防ぐと、服を着たまま海や川に転落した際の対応方法を学ぶ「着衣水泳体験」が6日、富山市堀川本郷のJSSスイミングスクール本郷で行われ、同スクールに通う未就学児から中学生までの計約160人が参加した。

準備体操を終えた児童らがTシャツ姿でプールに入ると、指導員は「服を着たままの状態だと泳ぎにくく危険。ラッコのようにお腹むけで浮いたり、何かにつかまったりして助けを待つ

ことが大事だ」などと説明した。

水を吸った服の重みで動きにくいいため、慌てずにペットボトルなど浮力のあるものを抱えて水に浮くことを意識することが重要という。児童らはその後、ペットボトルを持ってあおむけの状態で浮いたり、ビート板を木の板に見立てて泳いだりする練習をした。

参加した富山市立堀川南小2年の中川敢太君(7)は「普段の時と比べて足が沈んで泳ぎにくかった。大人が見ていない場所で危険な

短歌

よみうり

【秀逸】

隠り沼にはばたく鷺の水蹴りしむ

(評) 純然たる自然詠は最是隠り沼と鷺を対象に、緻捉えられ、鷺が水を蹴る音春去りて地上は緑に満ちあふこゆ

益荒男のごとき立山ふり向け

陽のあたり畝ある畑の雑草はいてる

青帯をキリリと締めた孫四年

俳句

【秀逸】

麦秋や朝の散歩の老二人

(評) 麦の芽から育ち六月蔵の秋である。朝から「散

にやわらかいぬくもりを醸

霊山の子宝の湯の夏景色

ハンモック小さく揺れて風薫

水遊びは絶対しない」と話していた。